

第十一回 中野 純 陶芸展 — 古代憧憬 —

折に触れて

旧石器時代や縄文、弥生、古墳、奈良、平安の
磐座や遺跡、古墳、古寺、古社など

太古～古代の人々の足跡を辿る旅をしています。

そのなかで、心に響いたことが作品へと繋がっていく、

この数年、自分で制作していて

そう感じるようになりました。

そこで、今回の個展を「古代憧憬」と名付けました。

昨年は初個展から 20年という節目の年でしたが

コロナ禍のために個展がなくなったこともあり

はからずも制作に集中する一年となりました。

私たちの生き方があらためて根底から問われるなかで

これも天から与えられた時間と考えて

内省と没頭のなかから生まれたのが

「祠 hokora」・「古代形象 ancient form」の両シリーズです。

また、2019年の房総台風被害の経験を経て生まれた

「木の皮写し・松灰釉溜まり手板皿」のシリーズは

台風のために倒された樺の樹皮を型として制作しました。

“人は災害のなかからでさえ、恵みを見出すことができる”

そのメッセージを込めた作品群であり

「用の器」が、その生まれるプロセスの中で「意味」を帯びるという、

中野にとって新たな試みです。

以上の3シリーズを中心としつつ

食器、花器、壺、陶板、茶碗もあわせ、

新作 80点余を出品いたします。

名古屋では3年ぶりの個展となります。

みなさまお誘いあわせのうえご来場くださいますよう

ご案内申し上げます。

中野 純

2021年5月12日(水) - 18日(火)

10時 - 19時30分 (最終日 16時閉廊)

松坂屋名古屋店 本館8階 美術画廊

〒460-8430 名古屋市中区栄 3-16-1 TEL.052-251-1111(代)

(扉ページ)

1. 祠 hokora

幅 23.2×奥行 25.0×高さ 42.2cm



3. 古代形象 ancient form #1
縦 24.9×横 12.5×厚み 2.1cm



4. 古代形象 ancient form #5
径 19.0×高さ 2.8cm



5. 藁灰釉筒茶碗「人間万事塞翁馬」
径 10.6×高さ 8.0cm

古
代
憧

6. 木の皮写し・松灰釉溜まり手板皿
幅 25.4×奥行 23.5×高さ 7.0cm



憬

第11回
中野純
陶芸展



7. 松灰釉 陶板「アマビエ」
縦25.5×横24.0×厚み3.0cm
コロナ禍のなかで急に注目を集めたアマビエ。このネット時代にあつてなお、人がアマビエを頼る風景に、人間の古今変わらぬ心性を思う。



10. 藁灰釉松灰釉 掛け分け大壺
径41.6×高さ26.0cm



8. 松灰釉 陶板「銅矛」
縦19.5×横36.5×厚み2.6cm
銅矛は銅剣や銅鐔などとともに祭祀の具として各地で出土。航海の安全を祈る祭祀にも用いられたとされる。記紀神話においても、国生みに重要な役割を果たしている。



9. 松灰釉 陶板「双脚輪状文」
縦23.1×横22.8×厚み2.8cm
双脚輪状文は九州の装飾古墳に見られる不思議な文様。専門家の間でも意見が分かれる、謎めいた文様に心惹かれる。



11. 祠(箱型) hokora box
幅19.7×奥行21.7×高さ32.2cm



2. 塔 pagoda
幅 22.2× 奥行 23.3× 高さ 57.5cm



Jun

〔中野 純 (なかのじゅん) 略歴〕

1972年 千葉県生まれ。1995年 立野窯開窯。

2000年 松屋銀座 (東京) にて初個展。

以後、名古屋、神戸、岡山、広島、熊本、福岡、金沢、富山、仙台など各地で個展を開催している。

また、特別展として

2013年には石川国際交流サロン (金沢市) にて

「中野純×蓬萊軒—中野純が作るあつた蓬萊軒の会席の器—」

2016年には白鳥庭園 (名古屋市) にて

「うつわあそび」を開催し、好評を得る。

名古屋では 2002 年に松坂屋にて初個展。

以後、回を重ね、今回が 3 年ぶり 11 回目の開催となる。

千葉県長柄町在住。

蹴り轆轤と、藁・松・樺など天然灰釉の風合いを大切に制作している。

www.junnakano.com/



Nakano